

十四代今泉今右衛門

佐賀県有田町生まれの現代の陶芸家。今右衛門家は江戸時代から現代まで続く佐賀県有田町にある窯で色絵鍋島という鮮やかな絵付けをした磁器をつくってきた。十四代今右衛門は、武蔵野美術大学工芸工業デザイン科卒業後、福岡、京都で修業し、十三代のもとで家業に従事する。日本伝統工芸展工芸会長賞など数々の賞を受賞し、現在、日本伝統工芸会正会員(理事)、2014年、色絵磁器において陶芸家としては最年少で人間国宝となる。十四代今右衛門は、伝統的な色絵磁器の技術を継承しつつ、描いた部分が白抜きとなる墨はじきの技法や十三代が確立した吹墨薄墨技法をさらに発展させ、現代の色鍋島磁器としての新たな様式を生み出している。